

みんな集まれ！

しまねの社会教育 キックオフ講座

浜田
会場

R7.7.9(水)

“集って 楽しむ” から “動き”をつくる

江津市地場産業振興センター

【講義】社会教育の概要としまねの社会教育

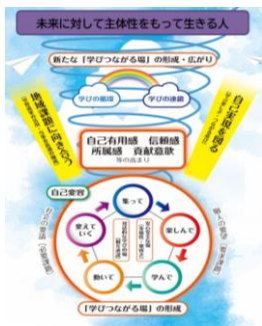
浜田教育事務所 社会教育スタッフ企画幹 竹田 進吾

1. 社会教育の基礎知識

- 社会教育法第2条から（社会教育の定義）
- 社会教育と生涯学習の関連
- 学校教育と社会教育

2. しまねの社会教育

- 特色
 - 公民館等施設での人づくり
 - ふるさと教育の推進
 - 地域学校協働活動の基盤
 - 社会教育主事が多い（19市町村すべてに派遣）
- しまねの社会教育で大切にしていること
 - ・めざす姿：「未来に対して 主体性をもって生きる人」を育みます。
 - ⇒社会教育の流儀「集って 楽しんで 学んで 動いて 変えていく」



3. 社会教育を進める人・支える人

- 社会教育施設：公民館・図書館・博物館等
- 社会教育主事（社会教育の応援団）、社会教育士
- 社会教育委員

4. 社会教育を進めるみなさんへ

- 学校と地域の協働した取組
⇒ふるさと教育、結集！しまねの子育て協働プロジェクト
- 研修会や講座を通じた取組
※必要な力を育む
コーディネート力、コミュニケーション力、ファシリテート力、企画立案力、プレゼンテーション力
(つなぐ力) (かかわる力) (ひきだす力) (うみだす力) (つたえる力)
- ※「親学プログラム」「地域魅力化プログラム」の活用
- 住民の当事者意識の醸成
“押しつけがましくなく なんとなく乗せられて いつの間にか地域のことを考えるようになる”
- 社会教育の人材派遣、養成、育成（派遣社会教育主事、しまねの社会教育人材認証・登録制度）
(講義資料より)



【実践発表・実践検討】「お月見どろぼう～若手部の活動～」

浜田市岡見まちづくりセンター 主事 河野 晋哉 氏（令和6年度公民館等職員研修受講生）

事業の目的

- まちづくり推進委員会「若手部」の活動が活発になるきっかけとした。
- 今後の参加を期待して保護者に「若手部」を認知してもらう。
- 子どもたちに非日常の楽しみを体験してもらう。

事業：お月見どろぼう～ブラッシュアップをして開催

会議で工夫したこと

- 雑談から話しやすい雰囲気づくりをした。
- 適度な距離感で話せる機の配置を意識した。
- 議事録はホワイトボードで共有した。

事前準備

- 若手部のリーダーがチラシを作成した。
- できる人ができる時に無理せず協力した。

開催1週間前に。
熊の出没！！

「若手部」は安全対策を
考えて実施した！
主体性が高まった！

- 対応：見守りスタッフの増員
：熊鈴を配布⇒鈴の色で班分け

※お月見どろぼうとは…中秋の名月に限り、お供え物を盗っても良く、お供え物がとられるとその家の畑などが豊作になるといわれている。

参加者のアンケートから

- 「お月見どろぼうにまた来たいですか？」⇒また来たいとの声が多かった。
- 夜のおさんぽが楽しかった。
- 子どもも大人も楽しかった。
- パネルシアターがすごかった。

スタッフアンケートから

- できることを少しずつ手伝うことで無理せず参加できた。
- 大人も楽しめる企画もやってみたい。
(子どもたちも参加してもらえるもの)

成果

- 活動をととして「若手部」への新たな参加者が増えた。
- 今後してみたい事が見つかった人がたくさんいた。
- 保護者間の交流の場にもなった。

いいな！すごいな！真似したい！

- 会議を話しやすい雰囲気にする工夫は真似してみたい。
- 楽しいと思うことをみんなが無理せずにのスタンスで行った。
- 若者の考えを否定しないが根底にあった。
- 中学生から園児、子どもみんなが非日常を体験した。



竹田企画幹からのコメント

- ・ハブニングで「やめる」ではなく「だったらこうしよう」とみんなのアイデアでつくりかえていくことは、社会教育の良さと感じた。
- ・この事業は社会教育の流儀「集って、楽しんで、学んで、動いて、変えていく」一連の流れが見える事業。

【演習】「自分にできることを考えよう！」（□の中は出された意見）

- 住んでいる(勤務している)地域の現状(良さ・課題)を付箋に書き出しグループで紹介し合いパネルに貼る。

地域の現状
(現在)

- ・地域の方が親切
- ・活躍する若者がいる
- ・元気な高齢者が多い
- ・人が温かい
- ・あいさつが必ず返ってくる
- ・自然が豊かで体験ができる
- ・地域のお祭りが多い
- ・子どものために動いてくれる人がいる
- ・地域の魅力、資源が知られていない
- ・地域行事への参加者が少ない
- ・若者が都会に出てしまう
- ・役員のなり手が少ない
- ・世代間の交流が少ない
- ・独居の高齢者が多い



- 理想の地域像を実現するために何が必要かを考える。
実際に取り組みそうなものを丸で囲む。

子ども・若者

子どもに地域の良いことを伝える→外に出て宣伝してくれる
帰りたい人の受け皿づくり→お試し定住、地元と交流
地域にあるモノ・コトを伝える

活気

地域芸能（神楽）をいかす・継続
子どもから高齢者まで集う多世代交流
中学生が主体となるイベント

生活環境

交通網の整備 ドローン配達 移動販売
コミュニティバス シルバータウン



- 他のグループの考えを共有する。



- グループで「自分にできそうなこと」「やってみたいこと」を発表し合う。



【ふり返りより】研修をふり返って、心に浮かんだキーワードを書く

- ・共に楽しむ 共に考える
- ・人とつながる
- ・つながりづくりは共通点さがし！
- ・様々な年代の居場所づくり
- ・楽しみの中から学びを見つける
- ・自分が楽しんで活動する
- ・知る時間 関係をつくる時間 小さくやってみる時間
- ・大人が楽しむ姿が子どもたちの未来を明るくする



【アンケートより】

- ・社会教育「人づくり」、（夢見る大人を見ることで、素敵な夢をもった大人に）を目指して学校と地域をつなげるサポートをがんばりたいです。
- ・まずは小さなことからトライしてみたいと思った。サポートをしながら住民にしっかり活動してもらい活躍の場をつくり、スキルアップできるよう、仕事を頑張りたいと思います。
- ・社会教育の奥深さ、難しさも実感したところ。常に学んでいかなければ、積極的にいろんな機会に参加して糧にしていかなければならないと感じました。
- ・志を同じくする他の地域の方と話すのは、良い学びになって楽しかったです。自分が今、考えていることを肯定してもらえ自信と意欲につながりました。
- ・社会教育はとても広いですが、「目的・ねらい」をはっきり持ち、「暮らしを楽しむまちづくり」に向かってみたいと思います。